

まずは、お気軽にご相談ください

旅をしながら農作業！参加申込窓口(個人・企業対応)

お申込み・お問い合わせ先

株式会社JTBビジネス・ソリューション事業本部 第四事業部 JTB農業支援事務局
〒163-0431 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング31階
TEL:03-5539-2757 FAX:03-5539-2758 E-mail:nohmeets@jtb.com
営業時間:月～金 9:30～17:30(土・日・祝祭日休業)(営業時間終了後の着信は翌営業日の取扱とさせていただきます。)

農作業参加に関するその他の相談窓口

お問い合わせ先

JA全農山形 営農企画部 営農支援課 TEL:023-634-8134

山形をもっと深くご紹介!

やまがた農業ぷちワーク

あなたのスタイルに合わせて、
やまがたの農業を手伝って
もらいませんか?

ホームページは
こちらからCheck▶



副業に最適
1日だけでもOK
あなたの休みの日だけ
人とのつながりを感じた
副収入にもいいねがい
時間の有効活用
美味しい野菜を育てる喜び
1日だけでも来てけると

体験

山形県で農業体験
してみませんか?

山形県では、以下の2つの農業体験を提供しております。

ぶち農業・農村
暮らし体験

年間最大
15日以内の
農業体験!

※体験の際に、ご家族と一緒に来県されると山形県産農畜産物(1万円相当)をプレゼント!

お試し就農
移住体験

1か月以上6か月以内の
農業体験!

体験先:山形県内の先進農家、農業法人
実施期間:4月～2月末 ※土日祝日も可
※こちらの体験は、ぶち農業・農村暮らし体験を実施後に利用いただけます。

詳しくは農サポやまがた

☎023-641-1117

までご連絡ください。



移住

やまがたの移住サポート

詳しくは、「山形県移住ポータルサイト やまがたごち」で検索!



食の支援
(県産食品を
プレゼント)



民間
賃貸住宅の
家賃補助



若者・子育て
世帯への
移住支援金



転入前日まで「やまがた暮らし移住希望登録」が必要です。登録は左記QRコードからお願いします!

観光

やまがたへの旅

～旅の先にある、もうひとつの暮らし～

山形県公式観光サイトを
チェック!



四季折々の自然、温泉や伝統文化など、
山形には地域ならではの魅力があふれています。
観光や体験をきっかけに、
山形での暮らしを想像してみませんか。

公式Instagram



農業からはじまる、働く・学ぶ・旅する新しいつながり

新しい価値は、いつも“つくる”現場から生まれる。

山形の農と人が出会うとき、そこには互いを刺激し合い、可能性を引き出す力が生まれる。
自然の恵みと人の営みが重なる瞬間、まだ見ぬ未来へ向けた創造の一步が静かに動き始める。

やまがたの農業がつなぐ、 人と地域との出会い。 ここから広がる、関係人口の輪。

山形県では、農家の繁忙期を支える取り組みとして、県外の皆さまにも農作業にご参加いただける仕組みを整えています。自然豊かな“やまがた”で、地域の暮らしに寄り添うひとときを過ごしてみませんか。

やまがたの農作業受委託モデルの仕組み



農作業を
頼みたい農家

作業依頼

作業実施

官民連携



人材募集・受入調整・
作業管理・地域との交流
を協働で推進する体制

人材確保

会社員 学生など 観光客



短期で農作業を
行う参加者

労務管理

アグリワーケーション

企業研修 + 農作業

ウェルビーイング × パフォーマンス

農村でゆったりと“滞在”しながら働き、農業や地域の暮らしに触れられる新しいスタイルです。朝は澄んだ空気の中で仕事を始め、休憩には滞在先の畑へ。土に触れ、季節の移ろいを感じる時間は、思考を整え、普段とは違う“気づき”をもたらしてくれます。地域の人との交流や、その土地の食文化との出会いは、価値観を広げるきっかけに。旅のように過ごしながら働くことで、視点が変わり、仕事のヒントが自然と生まれる瞬間があります。

「働きながら滞在し、滞在しながら地域とつながる。」
それがアグリワーケーション。



アグリツアー

旅行 + 農作業

心躍る農旅体験 × 旬味覚に出会う旅

農村の暮らしや自然にそっと触れながら、その土地ならではの体験を楽しむ“ちょっと特別な旅”。広がる畑の風、採れたての野菜の香り、農家さんとのあたたかい時間——。観光だけでは味わえない、農作業をしながら、その土地で生きる人の知恵や文化に出会えるのが魅力。

自然と人の営みが織りなす風景の中で、
山形の魅力をそっと感じる旅へ——。
それがアグリツアー。

協力体験 × 仲間づくり

自然の中で農作業やアウトドア体験を行いながら、仲間とのコミュニケーションや協働力をぐっと高められる“体験型チームビルディング”の旅。畑での共同作業、地元食材を使った料理づくり——。ひとつひとつをチームで取り組むことで、普段のキャンパスでは見えない“仲間の魅力”、自然の中で心がほぐれる時間を共有。ゼミ・部活・サークルの結束を深めたい学生団体にぴったり。

自然 × 農 × チームワーク。
フィールドが変わると、チームはもっと強くなる。
それがアグリキャンプ。

アグリキャンプ

合宿 + 農作業

INTERVIEW REPORT

やまがたで得た、 働き方のヒント

参加プログラム：アグリワーケーション

アナザーフィールド



メインフィールド



農を起点とした異業種交流



アグリワーケーション
紹介動画はこちら

県外からの参加者

日本航空株式会社
若林 輝樹さん(複数回参加)



Q.今回参加しようと思ったきっかけは？

A. 地域の皆さんとふれあう機会に魅力を感じたこと、そして農業をもっと深く知ってみたいと思ったことが参加のきっかけです。

Q.山形を選んだ理由は？

A. 山形の食や自然の豊かさ、とりわけさくらんぼをはじめとした特産物の魅力に惹かれました。地域の温かさや訪れやすさもあり、山形を選びました。

Q.印象に残ったことを教えてください。

A. 農作業に参加したことで、現場が抱える課題や、農家の方々の誇りとブランドへのこだわりを実感できたことが印象的でした。

Q.参加後、ご自身にどんな変化がありましたか。

A. 実際に農作業をしてみると、思った以上に楽しく、同時に大変さも実感しました。その体験から、農家の皆さんや農作物への感謝がより深まりました。

Q.アグリワーケーションを通じて「働く」ことに対する意識の変化はありましたか。

A. 異なる環境で多様な仲間と作業したことが良い刺激となり、働くことへの考え方に変化がありました。普段の仕事にも役立つ気づきやアイデアが生まれました。

INTERVIEW REPORT

本当の豊かさを知れた、 農業のリアルに触れた旅

参加プログラム：アグリツアー



焼畑あつみかぶの収穫に初挑戦

初めてのアグリツアー参加でしたが、綺麗な山々や自然に包まれ、畑に出て土に触れる体験は想像以上に楽しく、普段の生活では得られない充実感がありました。農作業は体を使う分ハードでしたが、その分、終わった後の爽快感は格別。自然の中で汗を流すことで、心も体もすっきりとリセットできました。夜には地元の食材を使った料理を囲みながら、参加者や農家の方々との会話も弾み、山形の人の温かさを感じるひとときに。帰る頃には、また季節を変えて訪れたいと思うほど、山形の魅力に惹き込まれました。次はさくらんぼ収穫の時期に参加してみたいと思います。



アグリツアー
紹介動画はこちら

県外からの参加者

大野 大さん(初めての参加)



参加者の1日(例)

- 7:30 朝食
- 8:00 宿泊施設 出発
(専用車で移動)
- 8:45 農作業場所 到着
- 9:00 作業開始
- 12:00 昼食(各自)
- 13:00 作業再開
- 15:30 作業終了
- 15:45 農作業場所 出発
(専用車で移動)
- 16:30 宿泊施設 到着
- 17:00 夕食
- 17:20 地域交流イベント
(地元食材を仲間と楽しむ)
- 20:30